

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」地域活性化・まちづくりへの応援
メッセージ

会報

NO. 16

2014. 6. 20発行

編集責任：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第 15 回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『春日井の戦争遺構』

～ふるさと春日井・軍都の時代～

6月1日（日）市民活動支援センター「ささえ愛センター」において第15回「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『春日井の戦争遺構～ふるさと春日井・軍都の時代～』と設定してフォーラムを行った。

発表は、郷土史研究家であり、近著『原爆投下部隊一第509混成群団と原爆・パンプキン』を出版された金子 力 氏にお願いしました。金子氏は、愛知県下の戦争遺構を調査し、先の戦争を市民目線から見たときどのような実態であったのか、そしてその歴史を語る数々の戦争遺跡や遺構が我々にどのような教訓を残してきたのかを記録し、保存してゆく活動が続けておられます。今日の春日井が昭和18年市政施行とともに軍都として発展してきた歴史を考えた時、鳥居松、鷹来、高蔵寺など春日井の広い地域に軍施設があったことを多くのスライド写真で示していただき、今日なお記憶に止め保存しておきたい遺構が多くあることが示されました。B-29 から撮影された爆撃を受ける鳥居松工廠周辺の航空写真は参加者の目を引いていました。参加者は、36名でした。



発表者：金子 力 氏



会場風景



「鷹来製造所跡碑」（春日井市長 鈴木義男 書）



「鷹来製造所司令塔（現在：名城大学農学部農場事務所）」

第15回 ふるさと春日井学研究フォーラム

「春日井の戦争遺構～ふるさと春日井・軍都の時代」 講演録 2014. 6. 1

金子力氏から約1時間のスライドによる春日井の戦争遺構(戦跡)紹介を受け、休憩を挟んで18頁にも及ぶ資料による講演を受けた。参加者は36名。

I 1)スライドは現名城大学農学部附属農場の**鷹来工廠**(名古屋陸軍造兵廠鷹来製造所)跡の写真から始まった。その説明に入る前に、今しがた本フォーラム会長河内清さんより旧鷹来工廠の建物が取り壊されることが決まったと聞いてショックを受けたと話された。金子氏の手元には建物内部も含め大量の写真が残されている。勤労働員先の鷹来工廠を戦後訪問した長野県岩村田高等女子学校生徒の写真や破壊を免れた建物の写真(以上二枚は故長谷川良一氏の撮影)も映し出された。屋上はカモフラージュで土がかぶされ草木が生い茂るが、少し高く盛られた土盛りがあり、これが高射砲の設置場所だと教えてもらった。よく知られているが正面の陸軍徽章、これが黒塗りされているが、ほかの壁にも黒塗りの痕跡があり、建物自体の迷彩=カモフラージュかも知れないとのこと。引込み線の鉄道門(南鉄道門など)も今では撤去され戦争遺構が消えた。空爆目標情報などが載る**米国戦略爆撃調査団の提出書類**(secret だったもの、国立国会図書館収集分や米国国立公文書館)が最近、インターネットで見られるようになったという。国立公文書館**アジア歴史資料センター**の電子資料で補給廠や造兵廠の資料が簡単にただで検索できるようになった。かつては相当な金額をかけて資料収集していたものだ。鳥居松工廠への爆弾投下を予定していた**原爆模擬爆弾**うちの1発(4発目)が、投下による噴煙で視界を失い、誤爆で鷹来工廠に投下されたという事情も探りあてられた。投下された模擬原爆は「**長崎型**」で行われたという。月産2~3個の量産体制に入っていたという。2)鳥居松工廠(鳥居松製造所、現王子製紙)への空爆は1945年3月25日で25名の犠牲者を出した。さらに終戦詔書の放送された前日、**8月14日原爆模擬爆弾の投下**で7名の犠牲者を出した。三菱発動機を狙ったという。県道25号線(春日井一宮線)の「上条町6」信号の近くの道路脇の「**慰霊碑**」がその犠牲者の慰霊碑で、その最後に並ぶ4名が8月14日の犠牲者だ。鳥居松工廠内の被爆の写真も見せられた。工場北側のコンクリート塀に残っていた「軍機保護法ニヨリ…撮影模写等ヲ禁ズ」の警告表示が、その上に王子製紙が依頼して中学生に壁絵を描かせたことで見られなくなった。戦争遺構の価値が軽視された出来事も紹介された。GHQが鳥居松工廠を目標として投下した模擬原爆の被害状況、着弾効果を調査する現場写真は『原爆投下部隊～第509混成軍団と原爆・パンプキン』(金子力氏共著、2013.8.1刊、P177-191)に載る。3)その他、県道508号線の鳥居松、ヤマナカとケーキ店モンドルの駐車場の境に今も残る「陸軍省」の境界標は**春日井憲兵隊跡**の一角を示すと紹介された。名古屋陸軍補給廠高蔵寺部隊の入り口の門も姿を消した。比較的新しく発見された小牧飛行場**掩(えん)体壕**(飛行機を覆い隠す壕、1988年、区画整理中に偶然出てきた)の写真も紹介された。八田町・瑞穂通・高山町にもあったという。中日新聞の2000年3月19日付け近郊版「この百年、20世紀の足跡」で本土決戦

に備えて戦闘機を疎開させたものとある。突貫工事で住民も協力して作ったが、結局飛び立つことは無かったという。軍用鉄道関係では、現王子製紙への引込み線、小木田町の分岐点、三ツ又公園鉄道跡、桃山町の 155 号線上の鉄橋跡、玉野町のうぐい川鉄橋跡など戦争遺跡はまだかなり残っている。鷹来工廠跡に名古屋市水道局の浄水場があるが、米軍は上水道についてもすべて詳細に調べていた。

Ⅱ ふるさと春日井市の誕生は「**軍都**」としての**出発**であった。その軍都誕生の経緯を詳細に調べられた。春日井市の市制施行は 1943 年 6 月 1 日であった。全国で 207 番目の陸軍造兵廠の設置に伴う市制が敷かれた。同日 208 番目の海軍工廠の設置に伴う豊川市が誕生した。同年 11 月の田川市の誕生以後、1945 年 8 月 15 日までの間市制施行はなかった。軍都最後の市制といえる。この軍都による市制施行に伴い、春日井市は 1940 年 10 月から 1944 年 2 月までの人口増加率は 87.9%(28,587 人から 53,709 人に)と全国 3 位の増加率だった。1 位は豊川市の 145.8%(30,455 人から 74,809 人へ)だった。市制の準備は都市計画法適用の都市調査が 1933 年から始まり、愛知県内では **1937 年 5 月 11 日に勝川が豊川・鳴海・高浜とともに都市計画法が適用**された。同年 10 月に内務省は勝川町を計画区域に指定した。1938 年 9 月、工場建設用地を鳥居松村に決定した。用地買収は 10 月に完了、20 万坪余を 45 万 6 千円で買収だった。翌年 2 月には工事が着工、8 月には鳥居松製造所の開所式が挙行された。小銃月産 3 万挺の目標だった。1940 年 1 月に九九式実包工場用地を鷹来村に決定、ただちに用地買収、工事着工となった。1940 年 2 月 27 日、名古屋新聞によると、「大中京都建設へ付近町村の合併へ」の見出しで、上野・大高・天白・猪高・東枇杷島を名古屋市の「都市計画区域」に編入し、有松・鳴海・守山・**勝川**・楠木・山田・新川・清洲も合併の視野に入っていると報道された。しかし、同年 7 月 23 日付け名古屋新聞は 8 月に「東春日井郡鷹来村を勝川町の都市計画区域に編入、勝川、鳥居松、篠木、鷹来とする」と伝えた。鳥居松製造所での**九九式短小銃**の生産(月産 200 挺)は 6 月に始まっていた。製造所の稼動に伴い労働者住宅(県営住宅)の建設、製造所内での電気・ガス・水道・電話などのインフラ整備が進んだ。1941 年 3 月には九九式短小銃の生産は月産 1 万挺になり、従業員は 11,500 人に膨れ上がった。太平洋戦争が始まったのは 1941 年 12 月だった。その年 12 月、鷹来製造所が開設され、月産 2 千万発の銃弾製造が始まる。春日井市の市制が敷かれた 1943 年 6 月 1 日は 1942 年 6 月のミッドウェー海戦で敗れた後だった。1944 年 4 月、**勤労働員学徒、女子挺身隊**の配属が決まり、鷹来工廠では長野県野沢高等女学校や岩村田女学校からの勤労働員もあった。同年 10 月、鷹来製造所で風船爆弾の製造が開始されている。

1944 年 7 月 1 日発行の「春日井時報」(広報)に載った「軍都春日井の歌」の歌詞(竹内親儀作)が載った。四番はこうある。「おほみことのり 畏みて 五萬の市民 一丸に 大御戦を勝ちぬかむ 我等が軍都 春日井市」… 膨大な資料をひとつひとつ綿密に検証してつくられたこの貴重なレポートが、平和を願うすべての春日井市民の平和テキストになって欲しいと思いながら講演を聞かせていただいた。(記録：塚田 忠雄)

OPINION—「ふるさと意識」なくして地域の活性化なし—

また一つ後世に遺しておきたい「歴史資産」を知ることができた FORUM でした。

大正生まれの祖父や父の時代、ふるさと春日井は、軍事都市として発展していました。

鳥居松、鷹来、高蔵寺地域を中心に広大な敷地を要した武器製造所が立ち並び、何万人もの従業員とその家族によって地域はにぎわいを見せていました。正に「軍都」と言われるにふさわしい地域発展をしていたことがわかります。まだ僅か 70 年程前の歴史です。今日もその当時の町並みは随所に残っています。しかし、時代の移り変わりは当然のことのように、建造物も人々もどんどんと消滅していつています。

現在戦争遺構として完全に近い形で存在している「鷹来製造所司令塔」(上記写真)は、軍都春日井の歴史を語る重要な遺構ではないかと思いました。現在は、名城大学農学部付属農場キャンパスの一角に当時のまま大学の教育施設として大切に使用されています。

先日、「軍都」として同じ様な成り立ちをした豊川市にある、「豊川海軍工廠」の戦争遺構群が市民と関係者の力で保存し、地域を平和公園化することによって歴史を後世に語り継いでゆくことになったことが報道されていました。素晴らしいことです。

「歴史遺産」の多くは、風化、劣化、破壊、消滅という運命を辿るものが後を絶ちません。経済優先、費用対効果中心の発想から価値転換を計る発想が必要な時代になってきているように思います。「消滅してしまったら元には戻らないのが歴史です」「まちづくり」は、知恵を出して、地域の自然、歴史、文化を守る活動でもあるように思いますが・・・。

(雲)

ふるさと春日井学研究フォーラム 第 14 回「下街道の歴史遺産」

講演録 (2014. 5. 4)

近藤雅英氏による「鳥居松の歴史」と村中治彦氏による「下街道の文化を伝える郷土館」の二本立ての講演だった。4 月 14 日に郷土館前にクロマツが植樹された。昨年 8 月に旗揚げされた「下街道サミット」(春日井、恵那、瑞浪、土岐、多治見の 5 市で結成)で街道整備のため沿道 10 ヲ所で植樹をし、案内板を設置することを決めた。その第 1 号が鳥居松から始まった。春日井市文化財友の会による「下街道」PR の活動である。

近藤氏の発表は、1)鳥居松の地名の由来、2)鳥居松の町の特徴=寄り合い身上の町、行政区画としての村名の誕生、4)鳥居松の主な人物の柱からなる。地名の由来の諸説はこうだ。①鳥居松の記載がある古文書に、これまで「春日井の地名」(1977 年、春日井郷土史研究会刊)で紹介の無かった白山信仰の美濃側の中心であった岐阜県郡上市白鳥町の長滝寺(ちょうりゅうじ、明治維新以前は白山中宮長滝寺。718 年建立、828 年に天台宗に改める)の「長滝寺の塔頭(たっちゅう)宝幢坊文書」(推定、寛永年間=1624~1643)まで遡られた。「鳥居松白山一ノ鳥居と云フ、昔ハ鳥居ヲ建立セシニ現今ハ松ノミニテ尾張国春日井郡勝河附近ニ

在り」という。②郷土館に建つ横井**也有**の「**内津草**」(1773 年=安永 2 年)にある「鳥居松といふ所にてわりごようのものとうでてよとていこう」「夜と昼の目は色かへて鳥居松」が有名であったがこれを 150 年遡る。後で村中氏が補強されたが、江戸時代後期に、白山講の熱心な支持者が鳥居を建てたのではないかという。

③村の沿革や境界、人口、租税額などでよく引用される「**徇行記**」(「**尾張徇行記**」「**郡村徇行記**」のこと、尾張・美濃・近江の尾張藩領の巡検記録、錦織奉行と代官を兼務の樋口好古が 1792 年から 1822 年に渡り記す。1826 年に書物奉行になり、同年死去)には、「昔時此地ニ**大山村児権現社**鳥居アリシ跡ナルユエ、鳥居松ト唱フト也」とある。「春日井の地名」での引用はここまでだが、「此**鳥居松島**ハ下街道通りニアリテ**町並**アリ、ココハ下原新田八田新田関田村上条新田**入合ノ所**ナリ、**通称鳥居松島**トイヘリ、**民戸農商ヲ兼ル者多シ**」「(八田新田の)村東下街道通りニアル民戸ヲ鳥居松ト云、此中一町余カカレリ、昔時此地ニ大山村**児権現**鳥居アリシ跡ナルユエ鳥居松ト唱フト也」を引用され、より詳しく情景を伝える。

④「**尾張志**」(1844)には「下原新田を分ちて東嶋西嶋六軒屋嶋**鳥居松嶋**となす」とある。同じころの「八田新田絵図(1841)」には「**鳥井松**」と書かれている。下原新田絵図にも「**鳥井松嶋**」とあるという。(「新修春日井市近世村絵図」より)⑤「**尾張名所図会**」(1880 年刊、編集は 1838-1841)にも「児権現むかし大社なりし此、一ノ鳥居の有し所ハ、こゝより者るか隔ちて今**鳥居松**トいへる、内津街道の村其廃跡なり」とある。児(ちご)権現の前身**大山寺**の寺域は多治見から鳥居松までであったという。

⑥陸地測量部の測量図(明治 24=1891 年)には「**俚称鳥居松**」とあり、今の鳥居松 1~8 丁目の下街道沿いの地域。(「俚称=りしょう」はその土地で呼ばれる俗に言うの意味)--鳥居松の語源に「鳥居と松」、「通りと町」(と一りまつ)、東里(トーリ)など興味深い語源説が紹介された。

行政区画としての**鳥居松村の誕生**は明治 39 年 7 月 11 日の町村大合併の時。地名の鳥居松は

あくまで**下街道に沿う地域の総称**であった。街道の**嶋**は西から「下」「中」「上」のついた鳥居松であったが、周辺の**村境に移り住んだ人々**により江戸後期から大正にかけて**順次町並み**が形成された。街道筋ではあるが宿場にはならず、**休憩地**であり、**休茶屋**があったに過ぎない。町の性格は「**寄り合い身上の町**」と表現された。八田新田や下原新田など**本郷の集落**は、街道から離れており、周辺からの「寄り合い」であったということだ。そういう移住者が茶屋や油屋(油茂)、染物屋(柏屋)、造り酒屋(永楽屋)、馬車屋など商家・生業を開いた。

二人目の発表は**村中治彦氏**による「**下街道の文化を伝える郷土館**」。1)村中氏は郷土館の開設にかかわられた人。春日井市政 30 周年を記念しての開設であった。開設から 40 年を経て、現在は耐震基準を満たせず放置されて閉館のまま。「**郷土館のしおり**」(初版、1973.6.15)を資料として配布された。「市民意識を背景に、市民のために、市民の手によって、この郷土館が、さらに充実していくことを願っていたと存じます」と意気込み豊

かに書かれている。今後の「郷土館の在り方」について「常に新しい角度から検討されるべき」と「市民生活と直結した血の通ったもの」とし、「郷土文化の伝統を知ると共に、新しい市民文化の創造に役立つものであって欲しい」と後続に向けたメッセージを込めている。村中氏は当時、30代後半であったがこのスタートに深く関わられた。館内は展示室(廊下・座敷・土間の一部)と収蔵室、郷土教室(土間)それに明治天皇が小休止した御座所がある。現在は耐震性から閣内への立ち入り禁止になっているが、村上氏の誇りは、講習会を開いてきて、その受講者から多くの文化財ボランティアを育ててきたことだ。最近まで5年ほどウォークラリーを月1で開催し、春日井駅前弘法から郷土館まで歩く行事を続けてきたことだ。郷土館の開会日は当初は金曜日午前9時から正午、後に土曜日の午後(4時まで)、土曜日の午前・午後と週1日と限られた開館であった。

もうひとつ用意された資料は、「春日井の近代史話」P40-41からの明治天皇御巡幸の扁額の写真が載る頁(扁額は林寅正氏宅にあったもの)。明治13年6月30日7時、少雨の中を多治見行在所を大行列が出発(463人の一行と新聞社8組、馬84匹)は内津の長谷川定七方で小休止、1里18丁を55分で坂下に。万寿寺で休憩をとり昼食をとったあと、鳥居松まで1里18丁を60分。飯田重蔵の離れ屋敷で小休止。内津から鳥居松まで時速約6キロのかなり早いスピードでの移動で、「親しく民に接し」えたかどうかは疑問。同日の行程は恵那の遠山家→釜戸(昼食)→土岐の安藤家(小休)→高山村→多治見→内津→坂下→下原新田(鳥居松)→勝川であったが、下街道での9ヵ所の立ち寄り先で、今日でもそのまま建物が残っているのは現鳥居松の飯田重蔵の離れ屋敷(今日の郷土館)だけである。その貴重な建物であってみれば、耐震工事を施しぜひそのまま残して欲しい。次善の策としては裏に隣接する町割公民館は市の土地であるので、街道の景観を残しながら奥に2~3階建ての歴史民族資料館の形で新築するのもいい。成功された篤志家が寄付されてもいいが、多くの人が汗して補修・改修するのがいい。商工会議所など関連団体が連携して郷土館を維持する取り組みをする。その呼びかけで募金活動を行うことが大事だ。とりあえずは市への要望書を出す取り組みが必要だと訴えられた。(記録：塚田 忠雄)

次回 FORUM のお知らせ

第16回テーマ『ふるさと春日井の自然』

日時：**平成26年7月6日(日) 13:30~15:30**

場所：**市民活動支援センター『ささえ愛センター』八幡小西 2階第一集会室** (TEL0568-56-5451)

フォーラム内容：

①「ふるさと春日井の淡水魚」

発表者：小川 茂徳 氏(日本淡水魚生態研究所所長)

①「ビオトープで蜚の飼育活動」

発表者：野田 源人 氏(春日井ビオトープの会会長)

第17回テーマ『ふるさと春日井・震災の歴史』

日 時：平成 26 年 8 月 3 日（日）13:30～15:30

場 所：市民活動支援センター『ささえ愛センター』八幡小西 2 階第一集会室（TEL0568-56-5451）

フォーラム内容：

① 「濃尾大震災とふるさと春日井」

発表者：近藤 雅英 氏（春日井古文書研究会会長）

平成 26 年度 「フォーラム」 日程と今後の予定（6/20 現在）

日程	討論テーマ	発表者	会場
3/30 (日)	「書のまち」春日井を築いた人々 会員総会・事業報告・平成25年度決算・平成26年度予算・事業計画	中村 立強 氏 「ふるさと春日井学」研究F	ささえ愛センタ
4/5 (土)	特別企画講演：PM2:00～ 「情報時代とまちづくりー百年単位の目標転ー」	月尾 嘉男 氏	春日井市東部市 民センタ
5/4 (日)	春日井市立郷土館と鳥居松の歴史	村中 治彦 氏 近藤 雅英 氏	ささえ愛センタ 予定
6/1 (日)	春日井の戦争遺構	金子 力 氏	ささえ愛センタ
7/6 (日)	春日井の自然「流域の淡水魚」 ビオトープで蛍の飼育活動	小川 茂徳 氏 野田 淑人 氏	ささえ愛センタ
8/3 (日) 8/29	ふるさと春日井・震災の歴史 巡検ツアー「道風が学んだ史跡を訪ねる」	近藤 雅英 氏 「ふるさと」主催	ささえ愛センタ (8/29 (金))
9/7 (日)	横井也有・句と人 也有句碑拓本実習	近藤 雅英 氏 川口 一彦 氏	見性寺本堂
10/5 (日)	ふるさと春日井「みどりのまちづくり」 ー自然環境保護の実践活動ー	高橋 勇夫 氏	ささえ愛センタ
11/2 (日)	未定		
12/7 (日)	「書のまち春日井」の書写教育 ー揮毫大会の歴史を中心にー	宮田 健一 氏 (小野小学校校長)	
1/ (日)	未定		
2/ (日)	未定		

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学 検 索 